

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 成果を検証する —

7



■シリーズ「郷・協・興 ①」

◎広がる連携・深まる絆

萩市立椿東小学校	志えんの会	会長	山本 忠虎
周南市立高水小学校	校長	池田 訓啓	

◎蘇る伝統文化

山口県指定無形民俗文化財			
「岩戸神楽舞」復興委員会	会長	矢原 久登	
		安藤 稔朗	
		久保志穂美	
		築橋 研三	

■わたしの潤い

美祢支部	
長門支部	
萩支部	

■教職時代を偲ぶ

萩支部	
-----	--

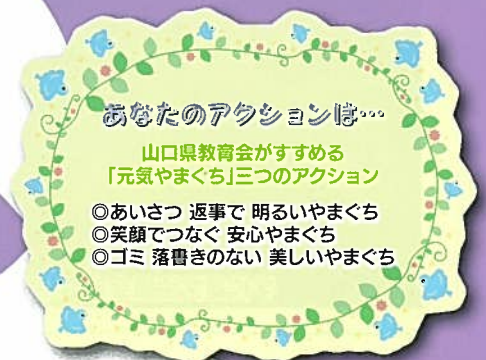
平成30年度 第71回山口県学校美術展 推奨作品
 「静かな廊下」
 山口県立下関中等教育学校 1年生 (受賞時) 飯田 結

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykoyoikuk.or.jp> E-mail ykoyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久



地域による学校支援

— 志えんの会 —



萩市立椿東小学校 志えんの会
会長 山本 忠 虎

「志えんの会」とは

「しえん」。私たちが普通思い浮かべる漢字は「支援」ではないでしょうか。私たち「志えんの会」が、普段行っている活動は、間違いなく学校支援ですから、その内容としては「支援」です。しかし、この学校支援という取組をきっかけに、子どもと地域、学校と家庭・地域など、様々な人と人のお互いの支援（えん）が始まり、その関係が円（えん）満に結ばれたり、また物事が円（えん）滑に運ばれるなどで、いろいろな「縁（えん）」が生まれます。私たちは、そのような幅広い「えん」を求めているのです。

その「えん」は、支援する側の押し売りであつては、生まれません。支援する側は決して主体性を持たず、支援を必要とする側の「志」を尊重し、吉田松陰先生の「志を立ててもつて万事の源とす」との意志を継ぎたいとの思いから、私たちの会の名称を「志えんの会」としました。

椿東小学校「志えんの会」は、このような思いの下、家庭教育の充実と、学校、地域社会における児童の福祉と健全な成長を図ること（会則第三条）を目的として、平成二十九年五月二日に、学校支援ボランティアサークルとして生まれました。

会の運営に当たっては、会則を定め、これにより、活動は「目的を達成するために、PTA、学校から要望された活動をはじめ目的達成に必要な活動を行う（第四条）」とし、会員については、「会員は、PTA歴代

役員など、本校の諸活動の支援をしたい方々とする。（第五条）」とし、取組の方向について誰もが理解できるようにしました。現在三十三名の会員で、椿東小学校の教育活動のお手伝いをしています。

椿東小学校を取り巻く支援組織との連携

現在、椿東小学校には、次のような支援組織がかかわつて、それぞれの立場で学校支援を行っています。

- ① 椿東小学校運営協議会
- ② 夏柑ネット（萩東中学校区地域協育ネット）
- ③ 椿東小学校地域見守り隊
- ④ 読み聞かせボランティアサークル「すずかけの会」
など

学校は、必要に応じてそれぞれの組織に支援を求めてきます。その求めに応じ、適切にお手伝いができるようにするためには、組織どうしの横の連携も大切が必要です。お互いの組織の代表が、他の組織の委員となつたり、役員を兼務したりして、それぞれが行っている取組を共通理解しながら、支援活動を推進しています。

膨らむ期待と今後の展望

無理なく、自分のできることをできる時にやっていたり、ただくというスタンスで、会員をさらに増やし、学校やPTAの要望にだけ応えていきたいと思つています。今後、学校が行う新たな教育活動へのお手伝いも増えてくるかもしれません。そのような状況に対

して快く応えていくためには、ある程度の人数を確保することが必要です。

地域で暮らす方々や、自分の子どもが卒業し椿東小学校のPTA会員ではなくなる保護者の皆様が、椿東小学校との縁を絶やさずに、以後ずっと支えていただくような組織に成熟させていくことが大切です。そのため、「志えんの会」と学校との結びつきのすばらしさや生涯学習の視点に立ったボランティア活動の意義や喜びなどを広く広報するとともに、積極的に入会への声かけをしていきたいと思つています。

また、会員が増えると、連絡や日程調整にも手間がかかります。事務局を複数体制で円滑な運営を図るなどの組織改善も必要になってきます。

さらに、椿東小学校区には、至誠館大学があります。大学とうまく連携を深め、「志えんの会」のボランティア活動が学生の自分の経験や勉強に、あるいはその後の人生に役立つような仕組みを作ると、お互いの立場や取組が充実するのではないかと期待しています。



学校運営協議会部会熟議の一員として

継続的な花生け活動

毎週月曜日の朝に校舎内の手洗い場やトイレに花を生けます。1週間という比較的短いサイクルで継続的に実施することにより、活動が定着するとともに、花を生けながら、子どもたちとのコミュニケーションが広がりはじめました。

この活動を子どもたちはしっかり見ており、当たり前ではなく、感謝の気持ちを持ち、自分たちにも何かできることはないか考えさせ、一緒に活動できるようにしていきたいと思っています。



草刈り作業

椿東小学校には、裏山を含め、校地内の草刈りが大きな課題となっています。特に、夏場は刈っても刈っても、草が生え、子どもたちの学習・遊びに大きな影響を与えています。

無理のない範囲で、自分たちでできる時間に草刈りを行っています。

参加しやすい曜日や時間帯、作業しやすい範囲等を



をしっかり検討することにより、次第に作業に加わる人を増やしていきたいと思っています。

「志えんの会」活動紹介

大運動会でのお手伝い

学校・家庭・地域が一緒になって盛り上げる大イベントの運動会において、学校周辺の交通整理や



駐輪場の見回り、ジュース販売、授乳室・おむつ交換所の見回りなど、教職員やPTAの仕事を請け負い、運動会を側面から支える活動を行いました。

保護者も、わが子の応援ができ、また、一緒にゆっくりお弁当を食べることができたたいへん喜んでおられました。

椿東ふれあいフェスタ等での支援



椿東ふれあいフェスタをはじめ、数々の地域連携行事において、学校やPTAからの要望に応じて、

希望内容に沿った活動支援を行いました。

椿東ふれあいフェスタでは、「餅つき」に関わり、文字通り昔取った杵柄を子どもたちに披露することができ、同時に子どもたちへも餅つきの体験をさせることができ、椿東ふれあいフェスタを大いに盛り上げることができました。

校長先生からのご挨拶

椿東小学校は、萩市の中心部近くに位置する小学校です。平成二十七年七月、明治維新胎動の地である萩市の五か所史跡が「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録され、そのうち三か所（萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、松下村塾）が本校の校区内にあります。特に、松下村塾は、本校のすぐそばにあり、子どもたちは、吉田松陰を松陰先生と呼び、たいへん身近に感じています。現在四百二十九名の児童が、昭和九年から継続して掲げている校訓「至誠」の下で学んでいます。開校以来一貫して流れている「邑学を振興し、社会・国家発展の原動力となる有為な人材を育成する」との精神を「不易」なるものとして踏まえ、松下村塾の「貞里追求」「師弟同行」「個性尊重」の実践を学校経営の基調としています。

私が赴任してからは、子ども・保護者・地域にもわかりやすいように、目指す学校像を「椿東笑楽考」（ちんとうしょうがっこう）として、笑顔あふれる学校、学校に行くのが楽しい学校、何事も考えて行動する学校にしようと頑張っているところです。

ちなみにチャレンジ目標は、①笑顔で明るいあいさつと返事、②足もとすつきり、③黙動、黙動です。

「志えんの会」の山本会長さんは、現在は職を離れておられますが、在職中は萩市教育委員会生涯学習課にも勤務され、当時から「とらさん」の愛称で親しまれています。人情味厚く、穏やか、しかも社会教育や学校教育にも理解が深い方です。「志えんの会」を立ち上げていただいたことで、中学校区の協育ネットにつながる椿東小学校の支援の柱ができ、頼もしく思っています。

（校長 國森 秀昭）

地域と共に楽しい学びへの橋渡し 楽学橋をめざして



周南市立高水小学校

校長 池田 訓 啓



新任校長として

校舎の周辺には桜、校舎の背景には烏帽子岳の山並み、手前には島田川の支流、春風に泳ぐ鯉のぼり：：本年四月、まさに映画のワンシーンのような風景に迎えられる、周南市立高水小学校長として着任しました。

正門の手前で、島田川支流に架けられている一つの橋を渡ります。この橋の欄干には「楽学橋」と刻まれています。この銘板を目にしたとき、これまでに覚えたことのないほのぼのとした温かみを感じずにはおれませんでした。



「楽学」の精神は、明治三十一年に私立高水村塾が高水地区に生まれた時代から大切にされた教えの一つで、それがこの橋名の由来であることがわかりました。私は、この「楽学橋」の名のとおり、学びが大好きで、楽しく学ぶことができる子どもたちの育成を目指し、教職員、保護者、地域が一体となって、子どもたちの「楽しい学びへの橋渡し役」になれるよう尽力したいと強く思いました。

着任して感動させられたことがもう一つあります。保護者や地域のみなさまが子どもたちに向けてくださる思いと惜しみない支援です。コミュニケーション・スクール全盛の現在ですから、多く

の学校で地域の状況に応じて特色ある取組が展開されていることは承知しています。けれども、特に、これまで中学校に籍を置いて勤務してきた私にとつては、小学校での保護者や地域のみなさまとの数々のふれあいやいただく支援にただただ感動するばかりでした。まずは、この活躍ぶりを、多くの方々を紹介し、知っていたことができ、保護者や地域の皆様の惜しみない支援に感謝し報いることに結びつくものだと思います。本稿の筆を取りました。

地域の教育への関心

本校は周南市（旧熊毛町）の東部、山陽自動車道熊毛インターチェンジから北へ車で約五分のところにある、標高六百九十七メートルの烏帽子岳の南山麓に広がる盆地にあります。元来農村地域でしたが、約四十年前に周南工業地帯の住宅地として大規模団地ができたことにより、工場等への勤労者も増加し、共働きの家庭も多くなりました。「高水村塾」が有志によって設立され、その教えが今日でも引き継がれていることに象徴されているように、郷土の教育振興に歴史と誇りをもっており、学校教育へ



校舎の全景

の関心は高く、学校への支援は極めて積極的です。支えていただいている組織とその連携

高水小学校の学校運営協議会は、多くの小学校と同じように、有識者、学校関係者、PTAなど十五名で組織されており、年一回の熊毛中学校区学校運営協議会を含め年間五回開催しています。運営協議会委員の皆様から忌憚のない意見や助言をいただく中で、委員の皆様が高水小を大切に思う気持ちがひしひしと伝わってきます。

高水地区校外育成協議会に地区のほとんどの団体が所属することで地域協育ネットが形成され、互いに連携を取りながら学校を支援していただいています。また、高水地区まちづくり推進協議会が中心となって公民館活動を行い、通学合宿をはじめ、高水市民センターまつり、高水ふれあいフェスタなど、地域に密着したイベントを実施し、これらにたくさんの方々の児童も参加しています。

学校の花いっぱい運動にも、地域のみなさまがいろいろな形で支援していただき、昨年度は周南市花壇コンクールで優秀賞を受賞することができました。今年は五月に十連休がありました。地域の支援により、花の水やりを絶やすことなく行うことができました。五月の末には、花壇いっぱいには花が咲き誇り、運動会に彩りを与えてくれました。

学校支援の実際

下の写真は、PTAが実施している「クリーン・デー」の取組です。PTAも学校に気持ちを持ってくださることから、子どもたちは毎日気持ちよい環境で生活できています。次ページには、その他、地域のみなさまからたくさんいただいている支援の実際を紹介いたします。



「PTAクリーン・デー」のようす



楽学の集い「さをり織り」



楽学の集い「三門松づくり」



楽学の集い「絵手紙」



楽学の集い「茶道」

■楽学の集い

- 地域在住の専門的な先生方とふれあう活動を通して、高水の人材の豊かさを知るとともに、郷土を愛する気持ちを育てる。
 - 各方面の専門家に指導を受けながら活動することにより、伝統文化をはじめわが国の様々な文化に親しむことができる。
- 以上の2点を主なねらいとして、それぞれの活動に地域の指導者を招聘し全校一斉に活動を行います。
- 本年は、さをり織り、竹細工や絵手紙、牛乳パックのリサイクル工作など7つの活動を実施する予定です。
- 指導者の先生も各活動ごとにたくさん参加して下さり感謝するばかりです。



通学合宿の一活動「そうめん流し」

■通学合宿

6月末から7月初めにかけて、子どもたちが家庭を離れ、高水地区の市民センターやふれあいセンターなどの拠点施設で、4泊5日の共同生活を行います。自分たちで生活することにより、コミュニケーション能力や、主体的に生きていこうとする心情と態度を育みます。

地域の子どもたちは地域の力で育てたい、地域とのかかわり合いを通じて子どもたちの郷土愛を醸成し、将来の地域の理解者・後継ぎを育成したいとの願いから、平成21年に「まちづくり協議会」が中心となって取組が始まりました。

実施に当たっては、民生児童委員協議会や食生活改善推進委員会、社会福祉協議会、老人クラブなど、たくさんの団体や組織が協力支援して下さいます。

■学校作業の日

校地には桜やツツジなど、数え切れないほどたくさんの樹木があります。毎週月曜日には地域の方々が剪定に来てくださるおかげで、常に美しく手入れされた環境を保つことができています。



校地内樹木の伐採・回収

■地域見守り隊

50名の見守り隊の方々が、毎日の子どもに登下校を見守ってくれています。活動の中で生まれる子どもとの微笑ましいやりとりや出来事に、隊員のみならず、子どもたちから元気をもらっているとの感想をたくさんいただきます。



見守り隊対面式

見守り隊の授業参観



支援員の笠井保雄さんにインタビューしました

Q 小学校時代はどのような活動をしていましたか。

山や野原を駆け回って遊んでいました。下の子守りをしながらもよく遊んでいました。

Q これまでどのような活動をされましたか。

稲作り、サツマイモの栽培、しめ縄づくり、二門松づくり、餅つき、焼き芋、ピザ作り、花壇づくり、樹木の剪定などです。

Q いつ頃から始められたのですか。きっかけは。

約十三年前、それまで長年熱心に取り組んでおられた方が高齢になり、やめられたので、現在は数人のグループで引き継いでいます。

Q やってみたいですか。

なかなか大変な作業ですが、充実感があります。子どもたちの生き生きした顔を見るとまた頑張ってみようと思うんです。ほかの仲間もみな同じ思いだと思います。

Q どんな時にやりがいを感じますか。

子どもたちが楽しそうにやっているのを見る時、いろいろな場所で出会うと「笠井さん！」と声をかけてくれる時ですね。気持ちまでも若くなります。Q 子どもたちにどんなことを期待していますか。何事でも好きなことにしっかりチャレンジしてほしい。他人に対して思いやりをもち、よい仲間づくりをしてほしいですね。

Q 学校や地域に対して何かお考えがありますか。

環境整備ひとつ取り上げても、地域みんなが協力して下さったおかげで、学校がきれいになったのだと思います。そんな思いを、学校からどんな発信して、地域とのよい関係を作ってほしい。また、地域の人達も地域の学校だと言うことを再認識して誇りをもってほしいですね。

Q 今後さらにもっとどのような事をお考えですか。

子どもたちが、ますますのびのびと勉強したり遊んだりできる環境作りをしていきたいと思います。(聞き手 学校運営協議会 会長 吉松 俊久)

次世代への文化遺産の継承と、 文化資産を核としての地域活性化を目指して



山口県指定無形民俗文化財「岩戸神楽舞」復興委員会

会長 矢原久登

岩戸神楽舞の復興を願う

岩戸神楽舞は、宇部市二ツ道祖の一隅にそびえる標高三百メートルの御伊勢山に奉祀する皇大神宮（天文十年杉氏が鎮守として志田丸城に奉祀、天文二十一年落城杉氏滅亡して御伊勢山に奉祀）に対して明和の年中、長谷川庄兵衛氏が奉納行事として始めたものと伝えられています。十二種十三座の舞があり、天蓋操作等、ここにしかない独特の舞もあります。



「岩戸神楽舞」練習風景

当初は、地区内七家が一家相伝の特技として奉納され始め、その後は自治会内の有志により継承されましたが、少子高齢化の時代の波を真正面から被り過疎化していく地域の中で、二〇〇八年を最後に途絶えてしまいました。仕方ないと諦めつつも、伝統ある山口県指定民俗文化財である「岩戸神楽舞」の継承中断には、私自身忸怩たる思いを抱いていました。いつの日か復興できればと、手を尽くしてはみるものの、思うような結果とはならず、再興の陽の目を見ずに十年が経ちました。

動き始めた岩戸神楽舞復興への支援

地域では、現状の地域の課題を洗い出し、将来に向けての活動指針をワーク・ショップを開催して作り上げていきました。そして、多くの方々の熱い思いが集約され、地域計画が仕上げられました。その議論の中でも、神楽の再興を多くの方が望まれていることに改めて気づかされましたが、十年の歳月は、再興に必要な資金面・人材面の壁を更に高いものとしていました。昨年、市の地域支援員のご尽力で資金面の目途をつけることができ、更に、私も制作局長としてお手伝いさせて頂いている「ミュージカル山陽ありすの家」の代表のご高配により、当面の人材面のご支援をいただくことが決まり、復興委員会の発会にこぎつけることができました。「ミュージカル山陽ありすの家」は、「地方から文化を発信し、地域の元気を創造する」をコンセプトとしてその実現に向けて活動している団体です。

その後、報道関係者のお力により復興の活動を発信していただき、宇部フロンティア大学付属香川高校の皆さん



香川高校製作による衣装

から、衣装や継続的な情報発信にお力添えをいただくことができるようになり、復興の機運は高まりつつあります。活動していくにつれ、中学校時代の恩師と四十年ぶりに再会できたり、思いもよらない方々から沢山の興味関心や励ましを得ることができたりする中で、この岩戸神楽舞の、恐らくここにしかないであろうと思われる特色など、文化資産としての価値を再認識しています。

新たな価値の創造に向けて

この復興事業はただ単に伝統文化の発信にとどまらず、過疎地域の活性化に欠かすことができない、次世代を担う人材の育成にも大きく寄与することは元より、校区外の諸団体との相互協力の体制づくり等、新たな活動方式の構築等、地域に及ぼす波及効果は大きなものになると確信しています。

思考回路は時代に沿って柔軟にしつつ、時代の変化に負けることなく、守るべき伝統は守りつつ継承できたらと思っています。

この事業は無理と思われていたものが、今まさに、多くの方々の縁により実現できつつあるということに大きな喜びと興奮を覚える一方で、いただいた多くの皆様の熱い思いに感え、更には継承の道筋をしつかりとつけることの責任は重大であり、今後一層の努力をする覚悟も必要なことと認識しています。

是非、多くのみなさまに、まずは興味をもつて抱いてもらい、その上でどんな形でも縁をもつていただけたらと思います。小さな地域の大きな挑戦に、ご支援をお願いできれば幸いです。



「岩戸神楽舞」復興の進捗版 (万倉心おあいセンター)

自然と調和する石庭づくり



美祿支部

安藤 稔朗

厚東川の上流に位置する秋芳町北部は、豊かな自然に恵まれている。自宅から見える山並は、稜線がな

だらかで四季折々の景観も美しい。このような自然と調和する石庭の設計を以前から摸索していた。

そんな折、修学旅行の引率で訪れた大分県の耶馬溪で群がった豪快な奇岩・奇石を目の前にした瞬間「これだ」と着想した。

直ちに日田市の山中から耶馬溪と同じ安山岩を取り寄せることにした。自宅の敷地に運んだ石は、一つとして同じ姿、形のものはないが、単体の石は、色や肌の美しさ、自然の浸食

による形の面白さがある。この石のいちばんいい表情（石の顔）を見つけ、全体のバランスを見ながら親しい造園業者と据え付けていくのが、私の最も好きな創作行為である。

まず、庭の中心となる最も背の高い核となる主石を決め、それに添わせる添石を選んだ。主石を起点にして流れる滝の石組は、近くの「白糸の滝」を調査し、複雑な水の動きをイメージして組み方を工夫した。

裏庭は、背後に連なる雄大な山々の借景を活かして、表の庭とは違った

霧囲みの枯山水とした。「石の上にも三年」という諺があるが、石に魅せられ石庭づくりを始めて、すでに三十五年が経過した。



四段の滝

見学される方々には、石の持つパワーを実感してもらっている。勤務している短期大学では「石の魅力を引き出す」をテーマに「ミニ枯山水」の作庭に取り組んでいる。石に詳しくない学生も、実際に石に触れ、砂に接する製作活動を通して理解を深めている。

私にとって「笑いヨガ」とは



長門支部

久保 志穂美

「ホッホ ハハハ」と、リズムカルな掛け声と手拍子の後、「イエーイ」と両手を上げ子どものような解放感に浸る。これだけで笑いが広がる。そして本格的に大声を出し、季節の風物や物語を想像しながらお腹の底から笑う。以上が簡単な笑いヨガの流れである。なかなか爽快で頭の中がスッキリする。幸せホルモンの分泌により心が軽くなると共にプラス思考になり人を受け入れることが容易になる（私的な体験より）。笑いは広がるので心地よい集団空間となる。最近では医学的にも様々な効果が立証されている。

しかし、笑いは、体に良いと知りながら大声を出し長い時間笑うことは非日常のように思われている。

私は、六年前中学校の教職を退き、笑いヨガに出会った。地域の高齢者サロンや敬老会等で笑いヨガの実践活動を行っている。笑えないと言っていた人が大声で笑っている姿や、元氣な笑い声が響き渡り笑顔あふれる様子から、福祉関係者の方々に笑いヨガの良さが伝わりつつある。また月一回宗頭幼稚園での笑いヨガ活動も四年目を迎えた。回を重ねるごとに園児の成長を感じる場面が多くなっている。その度に、

この活動が想像力や表現力を育む一助になっているだろうかと思いつく。そして、思う。笑いヨガは教育現場に必要で、果たす役割も大きいと。今後は、笑いヨガリーダーの養成に取り組み、広い視野で実践活動ができる環境づくりを行いながら、人と人が繋がり心身の健康を保つ「笑いヨガ」実践活動の場を広げ、多くの人に体験してもらいたいと考えている。「笑いヨガ」、私にとって、夢を与え、若さと健康を保つ玉手箱のようなもの！



きれいな花を作り、イメージして笑う園児 (長門市立宗頭幼稚園)

教職時代を偲ぶ



萩支部

築橋 研二

私が新規採用教員として着任した学校は、下松市立中村小学校でした。とても厳しい毎日で、一学期で体重は十四キロも減ってしまいました。昼休みや放課後はサッカーをしたり、鬼ごっこをしたり、休みの日は子どもたちと釣りに行ったりと、充実した毎日でした。

二校目は、萩市の沖合46kmに浮かぶ見島にある見島小学校でした。教員の妻と幼い長女と愛犬を連れての見島上陸。二十四の瞳を夢見て着任すると、そこには担任する五年生、八十八の瞳が待っていてくれました。島の生活は、何もかもが新鮮で、妻と長女と共に通う小学校での奇妙な生活も味わうことができました。

指導したスポーツ少年団のバスケットボールチームが実力をつけ、ついには県大会に出場し、決勝で悔し涙を飲んだこと、島の人たちと海の幸いっぱいの中、楽しい交流会をしたこと、見島での六年目に長男が誕生し、島の仲間が一六畳もある鬼楊子作って、揚げてくれたことなど、素晴らしい思い出いっぱい見島での教員生活でした。

お別れの時、百人近い見送りの人たちが、「また帰って来いよ」の横断幕を振ってくれる仲間、心より感謝し、蛍の光の曲の中、別れのテープをしつかり握り、島を後にしたことが今でも脳裏に浮かんできます。

次に思い出深い学校は、新米校長として赴任した下関市立三豊小学校です。豊田湖の湖畔にたたずむ自然の中の学校です。十一名の純真な子どもたちが迎えてくれました。色々な野鳥や鹿が度々訪問してくれます。職員室前の木にヤマガラや、キツツキの仲間アオゲラが、巣を作り、雛を育てたことがテレビでも放映され

るなど、素晴らしい環境の学校でした。愛鳥校としての活動が認められ、東京で全国表彰を受けたことも懐かしく思い出されます。

この学校では、着任した年から事務職が引き上げとなり、二年目には教頭、三年目には養護教諭が引き上げとなりました。この危機を、たまたま隣の中学校に在籍しており、見島時代に新規採用で着任した事務さんとその校長先生に救っていただきました。



子どもたち、教職員とともに
(下関市立三豊小学校)

三年目は全校児童八名の内五名が六年生で、彼らが卒業すると、次年度は三名しかいなくなります。学校存続か、それとも休校か。保護者に苦渋の決断を迫ることになったのです。明治九年開校の歴史と伝統を誇る三豊小学校。過去には児童数二百六十名の時もありました。保護者も迷いに迷った末、師走の半ばに出した結論は、「転校」でした。休校が決定した瞬間でした。残り三か月。まずは記念誌の作成。休校式へ向かう準備、事務処理等。時間のない中、全職員が一つになり、何とか形を残すことができたことは、今では良き思い出となっています。

校長二校目は、萩市立育英小学校。教頭、担任、事務、養護教諭の全スタッフの揃っていることに心から感謝しました。文科省の道徳教育実践研究事業の指定を受け、職員一丸となって発表を成功させたことも思い出しい思い出となりました。

萩市立越ヶ浜小学校で、退職を迎えました。思い出起こせば、子ども、保護者、教職員、地域の方々に支えられての三十八年間でした。現在は、これまでお世話になったことに対する恩返しをと、日々、ボランティア的な活動をしています。十三年前に立ち上げた「萩平成維新塾」で、青少年教育にも携わらせていただいております。充実した感謝の日々を送っているこの頃です。

終身会員の紹介

藤本 哲城	様(下松)	兼重 光雄	様(光)
榎 徹	様(吉敷)	縄田 潔	様(吉敷)
金澤 和紀	様(阿東)	光田 裕二	様(下関)

(一財) 山口県教育会 参与会

四月二十三日(火) 山口県教育会館

各支部で小学校、中学校の参与をお願している校長先生、及び、公立高等学校、私立高等学校代表の参与の校長先生に集まっていたいただき、山口県教育会の諸事業、及び事業を進める上での事務手続き等についてご理解いただきました。



各地域の校長会とより密接に連携するために、本年度から四月に開催することとしました。あいにく、山口県教育庁義務教育課の地区別校長会やその他の年度初め会議と重なり、該当地区・団体の参与の校長先生にはご迷惑をかけました。

協議の中で、助成事業を活用した実践例として、長門市立深川小学校・大塚 準、山口市立秋穂中学校・吉富郁子、萩市立椿東小学校・國森秀昭、下関市立豊洋中学校・数井英三、各校長先生から、取組の様子を発表いただきました。

やまぐち教育の日・教育県民大会 第一回懇話会

五月十六日(木) 山口県教育会館

やまぐち教育の日・教育県民大会を主催する23団体の代表者が集まり、昨年度の山口県大会決算や本年度の柳井大会の概要について協議しました。



主催団体の一つであった日本海洋少年団山口県連盟、山口県保護司会連合会が退会し、本年度新たに(公社)日本教育会山口県支部が加わりました。

柳井支部からは、吉浦正明支部長ほか三名の役員が出席され、柳井大会の大会主題や日程について説明がありました。下関、豊浦支部の支部長にも出席願ひ、令和二年度的下関大会(仮称)についても概要を説明していただきました。